

科学技術関係人材専門調査会の審議における主な論点について (要旨)

1. 目標

世界水準の研究成果を創出し、活用するために必要な科学者、技術者、専門家を育成、確保する

2. 問題点

独創性・積極性や柔軟性が弱い
科学技術と社会の「橋渡し」人材が不十分
重点4分野等で人材不足との声

3. 背景

高度工業化社会に適した均質な人材の育成
知識社会、イノベーション、グローバル化に対応できず。
これまでにない融合分野や新興分野が今後のカギ
従来分野ごとのタテ割では育成できず
世界水準の優れた能力の育成に向けた取組が立ち遅れ
米国、中国等は強力に推進

4. 基本認識

世界最高水準の科学技術創造立国の実現には、これまでの殻を破る人材育成の方策が不可欠

ポイント
大学、産業界、初等中等教育、研究機関等が「つくり」に向けて連携協力する体制の構築が急務
人材の育成には長期的なビジョンが必要

5. 解決方策

- (1) 初等中等教育段階で多様性・創造性を伸ばす取組を支援
- (2) 大学入試の改善等、大学と高等学校との接続を改善
- (3) 学部・大学院教育の改革の推進、学生の体験や挑戦の機会を拡充
- (4) 学部・学科等の新設・改組による人材需要への対応
- (5) 大学院で学ぶ価値と魅力を高める方策を検討・具体化
- (6) 広い視野や学際的分野のための人材育成プログラムの奨励・支援
- (7) 技術者の生涯にわたる能力開発を支援
- (8) 女性研究者、高齢研究者、優れた外国人の能力を活用

6. 今後の検討課題

- (1) 若手研究者の自立性向上とキャリアパスの整備
- (2) 多様な人材を育成・確保する方策
- (3) 博士課程に優秀な人材が進むことへの支援策
- (4) 産業界の積極的協力と人材育成への参画
- (5) 科学技術関係人材の裾野の拡大と理解増進の施策 など

7. 今後の予定：さらに審議を深め、来年夏にとりまとめを行う予定